

戸張さんからバトンを受けました。

戸張さんには、教育行財政部会でお会いするようになって、いろいろと学ばせていただいています。

さて、私は学校事務職員として採用されてから 20 年以上経ちますが、今年度初めて新採用の方と勤務しています。前向きで、何事にも一生懸命な女性です。

これまで私は、採用から3校 15 年を複数校で勤務しました。小学校では 28 学級以上、中学校では 21 学級以上が事務職員複数配置の基準ですから、大規模校ばかりの経験です。この期間、ずっと先輩の事務職員と一緒に仕事をさせていただきました。今の学校に異動して初めて単数校での勤務になりましたが、児童数が増え、5年目に 30 学級（うち特別支援学級 2）になったため、また複数校になりました。

私が採用になった頃は、4月から6月ごろにかけて6回程度の初任者研修がおこなわれるだけでした。政令市となったさいたま市では、現在9回の教職員課主催の研修のほか、教育財務課での財務端末研修・任意団体の事務職員研究協議会での初任者臨任者研修などがおこなわれていて、初任者への研修体制はすいぶん充実してきました。ですが、基本的に事務職員に対して職場内の研修はありません。教員へは、職場に初任者指導担当者もいて、授業の進め方や授業参観・懇談会等の対応の仕方など1年かけて一通りの指導を受けます。そのため、指導者に対しても研修があります。

同様に新任事務職員へも指導者の配置ができればよいのではないかと思います。現状はそれが難しい状況ですので、せめて新採用者を配置した学校の校長には、1年でどのようなことができるようになっていくことが望ましいのか、そのためにどんなことを職場でも研修させる必要があるのか、採用した側が責任を持って伝えてほしいと思っています。

ところで、私が採用になった市（当時は町）は小中合わせて 10 校あり、事務職員は 11 名いました。私の勤務する中学校のみが複数校でした。月に1度定例の研究協議会がおこなわれ、先輩たちからたくさん学ばせていただきました。先輩の事務職員は皆さんとても個性的で、時に私の理解をはるかに超えるような展開に驚くことがしばしばありましたが、将来はこんな対応のできる事務職員になりたいとも思っていました。現実はそう甘くはなく、経験年数だけ増えた今でも偉大な先輩の足元にも及ばないということを痛感しています。

私自身は、カルガモの雛のように何をするにもどこに行くにも先輩の事務職員について回っていましたが、それが私のベースになっています。ですからカルガモの親の側になったことで、自分のしていること一つひとつが果たして正しいことなのか、ちゃんと伝えられているだろうか、彼女のやる気を削いでいないだろうか、などとても気になっていました。

ですが、4月から半年を過ぎて、給与・諸手当の報告や手続きも、旅費の請求も、配当予算の執行も、就学援助も、一人に対応出来ることが広がり、仕事の順番も自分で考えてどんどん進められるようになっていきます。気が付くと、近ごろ私の仕事量が減ってきました。日々成長している彼女を見ていると、あれこれ心配することもないのだと思えるようになってきました。

そういう姿を間近で見られることは私にとってとても良い刺激になりますし、新しい発見や再確認出来ることの多い毎日になっています。こんな毎日を大切にして、私もいつまでも少しずつでも学ぶことを忘れずにいたいと思います。

次は、私が頼りにしている清水みどりさんにバトンを渡します。